

全米オープンテニス遠征 報告書



2008年8月22日～9月4日

ニューヨーク・ナショナルテニスセンター

全国高体連テニス部



選手団

ディレクター 古賀通生

団長 馬瀬隆彦

監督 迫田義次

コーチ 福永二郎

選手 廣田耕作

小城千菜美

日程

8/22 (金) ~ 23 (土)	事前合宿 (早稲田大学)
8/24 (日)	結団式 (ホテル日航成田)
8/25 (月) ~ 9/4 (木)	全米オープンテニス

大会成績

男子予選1回戦	廣田耕作	2-6	SITARAN SUDANWA (IND)
		6-3	
		1-6	
女子予選1回戦	小城千菜美	6-2	TOLJAN JANINS (AUT)
		4-6	
		1-6	

総括

春の全国高校選抜テニス大会の個人戦で優勝した廣田耕作選手と小城千菜美選手が代表選手として選出され、全米オープンジュニアテニス大会に参加した。

今年は、事前合宿として早稲田大学にお世話になり、過去高体連大会で活躍した学生達と二日間にわたり練習を積んだ。また、日中韓ジュニア交流競技会に参加した代表選手も合同で練習会を実施した。早稲田大学の土橋監督をはじめ学生達も熱心に練習相手を務めていただき、大変充実した練習ができた。

ニューヨークではマンハッタンラケットクラブで練習を重ねて大会への準備をした。気候の違いや開催地への順応なども含め、選手がベストの状態に臨むためにも大変重要な時間であった。廣田選手は初めての参加と言うことでやや緊張気味であったが、練習経過と共に自分のペースを掴んできたように感じた。小城選手は昨年引き続き二回目の出場ということで、会場の雰囲気や大会のイメージも掴んでいる様子だった。また、昨年の大会で、大きくリードしていた試合を逆転負けしたということもあり、予選突破への思いが大変強い感じがした。試合の結果は、前に記載の通りであるが、両選手とも自分の実力を十分発揮仕切れない形での試合となった感じがする。廣田選手は、周りから見ても緊張している様子であり、もっと試合経験を積む必要があるように思えた。小城選手は、試合の序盤を自分のペースで進めながら、後半は相手の強打と集中力に押し切られる形で試合を落とした。世界の強豪と十分に戦うためには、もっとタフなメンタルと闘争心が根底にないと通用しないことを痛感した。今年の参加を財産に、今後も高体連テニスのレベルアップを図り、この地で通用する選手が育ってくることを強く願うところである。

監督 迫田義次



全米オープンに参加して

龍谷高等学校 廣田耕作

3月にUSオープンの出場が決まりすごく嬉しかったです。USオープンはずっと小さい頃からあこがれていた場所だったからです。それと同時に自分の実力が試せるという楽しさと、男子65,000人の高校生の代表と言うことで、少しプレッシャーもありました。まず、自分のたてた目標は予選を突破することでした。そのために何をすべきか、どんな準備をするべきかを自分なりに考えたり、色々な人に聞いて実行してきました。インターハイなどもあり、あまり時間はとれませんでした。できるだけ時間を確保してきたつもりです。そして迎えた予選1回戦。相手はインドの選手でした。1stセットは外国の持つ独特な雰囲気にもまれてミスが多く、ファーストタッチのエラーがとて多かったです。全く自分のやりたいことができずに2-6で落としました。2ndセットは、迫田先生の助言もあり、フォアで攻めることにしました。とにかく積極的に廻り込んでフォアで攻めました。そしたら相手もミスが増え6-3で取りました。ファイナルセットは相手もペースを上げてきて、ストロークでどんどん揺さぶってきました。それを無理な体勢から強打してミスをするなど、相手が仕掛けてきたのに対して対処できていませんでした。攻めているときでもアプローチでミスをしたりして、チャンスボールもミスするなどリズムがつかめず1-6で負けました。敗因はファイナルセットになってテンションを上げなくてはいけない場面をそのまま行ってしまったことだと思います。その点気持ちをもっと出すべきだと思いました。そこに悔いが残っています。この試合を通して解ったことは、技術的にはそんなに差がないことです。それと同時に、試合のやり方（どこで様子を見て、どこでペースを上げるかなど）を相手から学ぶことができました。まず相手を観察するということを取り入れてみたいと思います。

高校3年のインターハイ・全日本ジュニアが終わってのUSオープンJrで、少し気合いが足りなかった感じもしています。でも今回試合に出て、負けて、多くのことを学ぶことができました。また、たくさんのプロの試合やジュニアの本戦も見ました。プロは凄いなと思うと同時に、自分はここで終わりたくない強く思いました。将来は絶対プロになってグランドスラムの大会に出たいと思います。今回試合に参加して、しっかりした目標ができて良かったと思っています。絶対に達成します。

最後に、この遠征でお世話になった古賀先生、馬瀬先生、迫田先生、福永さん、その他関係していただいた方々に感謝しています。ありがとうございました。



全米オープンに参加して

長尾谷高等学校 小城千菜美

まず、US オープンに参加できるのも古賀先生や高体連の先生方、サポートしてくださったウィルソンの方など、色々なおかげだし、貴重な経験をさせていただき本当に感謝しています。

私は昨年につき2回目のチャレンジでした。昨年は1回戦を勝ち上がり、予選決勝であと1ゲーム取ったら本戦という所でしたが、相手が開き直ってきて逆転負けという悔しい思いをしました。今回は2回目だったので、大会の雰囲気も分かっていたし、緊張はありませんでした。試合では、ファーストセット6-1、セカンドセット4-2のリードでした。しかし、相手の球も入るようになり、私が打つてもしつこく返球してきて、打たされてミスを繰り返してしまい逆転負けをしてしまいました。やはり私の最後の詰めが甘かったため勝ちきることができなかったと思います。そして、私が外人と試合をして感じたことは、日本人だったらリードされていたら「もうだめだ」という雰囲気があり簡単にゲームを抑えることができるのですが、外人はハングリーだし、リードされていても「今度こそは」というように、逆に攻めてくると感じました。私は今大会で負けたことはとても悔しかったですが、負けた試合では勝った時の試合よりも得るものや学ぶことが多いと思うし、自分を見つめ直すことができるので、前向きに考え「リセット」したいと思います。

US オープンでは、プロの試合を生で観戦しましたが、テレビで見るよりもすごく迫力がありました。特に、錦織君と世界ランキング4位の Ferrer との試合は感動しました。激しいラリー戦の中で相手をぐらつかせてお互いにポイントをゲットしていたし、ファイナルセットでは緊張の中でも錦織君が打ち切って勝利をものにしたのですごく興奮しました。1つしか年齢が変わらない同じ日本の選手が、世界で頑張っている姿を見て心に響くものがあり、私ももっと努力をしなければいけないと思いました。直接迫力のあるトッププロのプレーも見ることができとても参考になりました。この経験を大切に、これからも頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。